

「石狩の宝発掘宣言」

石狩市観光振興計画を策定しました！

石狩の宝を発見して磨き、
観光のまちづくりで
地域を潤す

石狩の美しい自然や豊富な
食材、地域固有の文化・歴史な
ど、市にあるすべてのものを観
光資源として活用し、磨き上げ
ることによって、観光で地域が
潤うことを目指した、本市初め
での観光振興計画です。

平成18年4月から数多くの
関係団体や有識者などのアド
バイスを基に作成に取り組み、
その後、※パブリックコメントで
多く市民の皆さんからの意見を
いただき、平成19年3月に策
定しました。

実効性の高い新たな観光振
興施策を絞り込み、平成19年
度からの10年間で、56の具体的
事業を展開することとしてい
ます。中でも先導的、中核的に
取り組む事業として位置付け
られている6つの重点プロジェ
クトをご紹介します。

重点プロジェクト 1

石狩鍋復活プロジェクト

全国でも知名度の高い「石狩鍋」を、市内の多くの飲食店で提供できるよう、復活運動を展開します。活動拠点を「本町地区」とし、積極的なPR活動を通して石狩の食文化を広げるきっかけをつくります。

重点プロジェクト 2

厚田公園展望台 「恋人の聖地」プロジェクト

ブライダルデザイナー桂由美氏が中心となり、全国で展開している「恋人の聖地」プロジェクト。平成18年7月に「恋人の聖地・道内第1号」として認定された厚田公園展望台を活用し、カップルに向けた誘客事業を実施します。

重点プロジェクト 3

森の活用プロジェクト

濃昼山道保存会の6年間に渡る整備によって厚田区の「濃昼山道」が平成17年秋に再び開通し、これを起爆剤とした森林資源活用の気運が高まっています。新たなドライブコースの創設なども視野に入れながら、観光客の受け入れ体制を強化することはもちろん、森林を軸とするツアーの充実を図り、石狩の森林の知名度アップを狙います。

重点プロジェクト 4

浜益温泉魅力アッププロジェクト

浜益地区に釣りや登山、海水浴で訪れる人たちは、帰途、その汗を流してさっぱりするために、浜益温泉に立ち寄る傾向にあります。今後は、その傾向を踏まえたツアーの展開や、利用者の満足度を高めるためのサービスを開発・提供することでリピーターの増加へと結び付け、民宿との連携を進めて浜益地区の観光客増加を図ります。

重点プロジェクト 5

情報発信プロジェクト

観光情報の入手先として「知人・友人の口コミ」を一番の情報源とする人々が多い現状（「石狩市観光調査」結果）に対応して、今後は、観光客に最も求められている「地域住民の持つ生の情報」をいち早く提供できる体制を構築します。

重点プロジェクト 6

手つなぎプロジェクト

市内においては、エリアのつながりを強化し、情報を交換・共有することで効率的な観光振興を図ります。

市外においては、特に札幌市と札幌広域圏組合とのつながりを強化し、「点」から「面」への広域観光の実現を目指します。



「魅力があり、観光で地域が潤うまち」を実現するためには、その主体となる市民、地域、事業者、観光関連団体、市、北海道、国が共に汗をかき、協働することが必要です。訪れる人々に癒やしや感動を与えることのできる、ホスピタリティ（おもてなしの精神）あふれる体制づくりなど、それぞれの役割に応じて、自主的・積極的な取り組みを進めていきたいと思います。

※パブリックコメントは、11人の方から41件のご意見をいただき、そのうち11件を計画書に「市民からのアイデア」として記載しました

市の観光振興策は、この計画に書かれていることがすべてではありません。観光で潤うまちづくりのアイデアを皆さんと「共に考える窓口」が、ここにあります。

●共に考える窓口

商工労働観光課観光担当 〒061-3292 花川北6-1-30-2

☎72-3167 ☎72-3540

✉kankou@city.ishikari.hokkaido.jp

URL <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp>

計画書は市HPのほか、市役所1階情報公開コーナー、3階商工労働観光課、各支所地域振興課でもご覧いただけます。

チヨウザメの口は語る



2004年
石狩川河口にて混獲

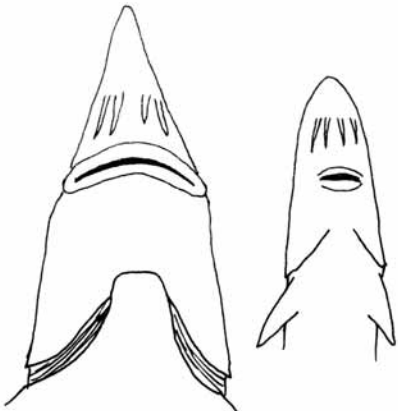
石狩で「サメ」と言えば、チヨウザメ。石狩弁天社にはチヨウザメの神様「妙亀法鮫大明神」が祭られているほど、石狩とは縁の深い魚です。

チヨウザメは、カスピ海、バルト海、ロシアや北米大陸の沿岸など、北半球の河川、湖、海に生息する大型の魚です。サメやエイの仲間（軟骨魚類）ではなく、サケやイワシなど、いわゆる普通の魚の仲間（硬骨魚類）です。大正時代くらいまで、石狩川にはたくさんチヨウザメが産卵のために海から遡上してきましたが、今では見ることができません。ごくまれに、河口や沿岸で混獲されることがあるくらいです。そのチヨウザメの特徴の一つは、頭部の下面（腹側）に開いた口。この口、実はいろいろな意味を持っているのです。

チヨウザメは、ヨコエビやカニ、貝など、川や海の底にすんでいる動物をよく食べます。ですから、腹側に口があると都合がいいようです。口の前にある4本の「ヒゲ」

でエサを探り、飲み込む（チヨウザメに歯はありません）のです。反対に、この口の位置があだとなることもあるようです。サケやイワシのような、体の先端に口がある魚とのエサの奪い合いの競争には、非常に不利だからです。

一口にチヨウザメと言っても、その種類は17〜27種にも及びます（分類が未確定なものが多い）。その中でも北海道近海で主に見られるのが、ミカドチヨウザメとダウリアチヨウザメの2種です。ミカドチヨウザメを含む *Acipenser* 属というグループと、ダウリアチヨウザメの属する *Huso* 属とを簡単に区別



ダウリアチヨウザメ（左）とミカドチヨウザメ（右）の口の違い（腹面）。ダウリアは非常に大きな口をもっています。そのほか、頭の先の形、左右のえらの間などに違いが見られます（尾本・前林, 2000; Omoto, 2004を参考に作図）。

テーマ展

「石狩のチヨウザメと鮫様」

2005年に石狩湾で混獲されたチヨウザメの剥製（北海道開拓記念館収蔵標本）を初公開。さらに！道指定文化財となった石狩弁天社の鮫様「妙亀法鮫大明神」像も特別展示します！

- 期間／4月28日(土)～6月4日(月)
- 場所／いしかり砂丘の風資料館
- 入館料／5月1日から大人300円

するキーポイントの一つが、口の大きさ。 *Acipenser* 属の口に比べて、 *Huso* 属の口は、明らかに大きいのです。このことから、標本や写真の残っている昭和44年以降に石狩周辺（河口や沿岸）で混獲されたものは、すべてダウリアチヨウザメであることが分かります。 *Huso* 属はチヨウザメの仲間でもっとも大きくなるグループ（最大8m）ですが、それは大口が可能にした大食漢だからなのかもしれません。

弁天社の「鮫様」は、いったいどちらの種類なのでしょうね。

（志賀健司）

2005年
石狩湾沖にて混獲

